

第



次



布

市

地

域



祉



動

計

画

社会福祉法人調布市社会福祉協議会

第5次調布市地域福祉活動計画策定委員会





## はじめに

平成7年度に第1次調布市地域福祉活動計画が策定されてから、20年余りが経過しました。この間、少子高齢化の加速度的な進行や生活環境の変化による福祉課題に対応するため、介護保険制度が創設され、障害者総合支援法や生活困窮者自立支援法などの法整備も進められてきました。

しかし、現在では福祉ニーズが多様化し、制度のはざまの問題や複合的な福祉課題を持つ世帯など、公的な福祉サービスだけでは対応しきれないケースが増え続けています。

このような中、平成28年に国は、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていくことのできる地域共生社会の実現に向けて、「我が事・丸ごと」の地域づくりを推進する方針を掲げました。

このことはまさに、これまで社会福祉協議会が進めてきた地域福祉の推進と重なり、これに対する期待の高まりとも言えますが、地域福祉の主役は紛れもなく地域住民であり、住民の主体的な地域活動への関わりや、近隣のちょっとした変化の発見と解決というようなことが求められているものと思います。

今回、調布市社会福祉協議会（調布社協）は、これらの課題に取り組むため「第5次調布市地域福祉活動計画」を取りまとめました。この計画は、市民のみなさんを中心に構成された策定委員から出された地域にある課題を、住民の力で解決するための具体的な取組が盛り込まれた、いわば手作りの計画になっています。また、行政計画である「調布市地域福祉計画」とも連動して、行政とも協働して地域福祉を進めるものとしています。

この計画が絵に描いた餅とならないよう、調布社協は、地域福祉コーディネーター（CSW）を核とした具体的な活動を進め、いつまでも住みつづけたいと思うまちづくりをめざして、市民のみなさんと取り組んで参りたいと考えております。

末筆になりますが、計画づくりを一から進めていただいた室田信一委員長をはじめとした策定委員会委員のみなさんに深く感謝申し上げます。

社会福祉法人調布市社会福祉協議会  
会長 関 森 正 義



## 刊行にあたって

地域福祉活動計画の策定は義務ではありません。市民が自発的に策定するものです。調布市社会福祉協議会（社協）では平成7年度に第1次の計画を策定してから、今回の第5次計画に至るまで市民と社協が中心となって地域福祉活動計画を策定し、推進してきました。

私は平成26年度から第4次計画の推進委員会の委員長を務め、平成28年度からは計画推進と同時並行で第5次計画の策定委員会の委員長を務めてきました。

今回、委員長として策定委員会を取りまとめるにあたり、こだわった点が3つあります。

一つ目は策定過程を委員に委ねるということです。一般的に計画を策定する際、事務局主導で計画の骨子を提案し、委員会で委員の承認を得て、最終的に事務局が取りまとめるという方法が採られることが少なくありません。今回の策定委員会では、調布市における理想的な地域のあり方を想像するところからはじまり、委員が3つの部会に分かれて議論をし、その内容を計画に反映することにこだわりました。その結果、当初の予定よりも多くの会議を重ねることになりましたが、委員も事務局の社協職員も最後まで手を抜くことなく議論を尽くしました。

二つ目に、実際に取り組むことを計画するということです。風呂敷を広げすぎて、結果的に絵に描いた餅にならないように、委員ができると感じたこと、やりたいと思うこと、やらなければならないと思うことを計画に盛り込みました。その結果、市内に8つの圏域を設けて、その圏域の中で住民主体の活動を推進することを計画の根幹に位置付けました。

三つ目に、6年後に策定する予定の第6次計画を意識するということです。次期計画を見据え、本計画が終了する6年後に市内の地域福祉活動がどのような状態になっていることが望ましいか、それに向けてどのように活動を推進・評価することができるかについて、「次の6年部会」が中心となり検討しました。長期的なビジョンを持ちながら草の根の取組を積み重ねていくことで、計画の推進が確実なものになると期待しています。

最後に、計画策定の道を共に歩んできた委員の皆様とその歩みを献身的に支えてくださった社協の職員の皆様に感謝申し上げます。

第5次調布市地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 室田 信一



# 目次

## 第1章 活動計画とは

1 活動計画の目的	1
2 基本理念	1
3 活動計画の位置づけ	2
4 活動計画の歩みと成果	3

## 第2章 第5次活動計画の概要

1 策定体制	10
2 スローガン	11
3 推進期間	11
4 基本目標	12
5 圏域（範囲）の考え方	13

## 第3章 体系、基本目標及び活動内容

第5次活動計画体系図	15
基本目標1 向こう三軒両隣、つながる広がるまちづくり	16
活動1 近所でできる身近な交流活動から始めよう	
基本目標2 居心地のいい場がそばにあるまちづくり	18
活動2-(1) 誰もが安心して集える場を増やそう	
活動2-(2) 公園など誰でも利用できる場で世代間交流をしよう	
基本目標3 ひとりの悩みをみんなで考えるまちづくり	20
活動3 誰でも悩みを相談できる場を増やそう	
基本目標4 身近な情報が行き交うまちづくり	22
活動4 話題に花咲く掲示板や回覧板を作ろう	
基本目標5 互いの理解が深まるまちづくり	24
活動5 知る・接する・体験する機会をできることから試してみよう	
地域と地域が“名刺”交換でつながろう	26

## 第4章 推進

- 1 活動計画の推進は誰が行うのか？…………… 28
- 2 福祉圏域ごとの推進体制へ…………… 28
- 3 活動計画推進のさらなる発展に向けて～地域を超えた交流・学び～…… 29
- 4 活動計画の推進予定…………… 30
- 5 次期（第6次）活動計画の策定方法…………… 30

## 資料

- 1 第5次調布市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱…………… 32
- 2 第5次調布市地域福祉活動計画策定委員名簿…………… 33
- 3 検討の経過…………… 35
- 4 委員・職員のコメント…………… 37

# 第1章 活動計画とは

## 1 活動計画の目的

「地域福祉」は、誰もが安心して住みつづけられる地域をつくるために、住民や各種機関・団体、行政などがお互いに協力し合って、人々が暮らすうえで生じる様々な生活課題の解決に取り組む考え方です。

「地域福祉活動計画」は、その地域福祉の考え方を実現するために、住民一人ひとりが地域の生活課題を自分たちの問題として捉え、その課題の解決を図るために、つながりづくり、支え合いの輪の構築、生活支援の仕組みづくり、社会参加の促進など、地域で取り組むことを具体的にまとめた行動計画です。

## 2 基本理念

### **「いつまでも住みつづけたいと思うまちづくりをめざして」**

市民一人ひとりが、ともに支え合い、互いの人権を尊重し、いきいきと暮らしつづけられる、福祉のまちづくりをめざします。

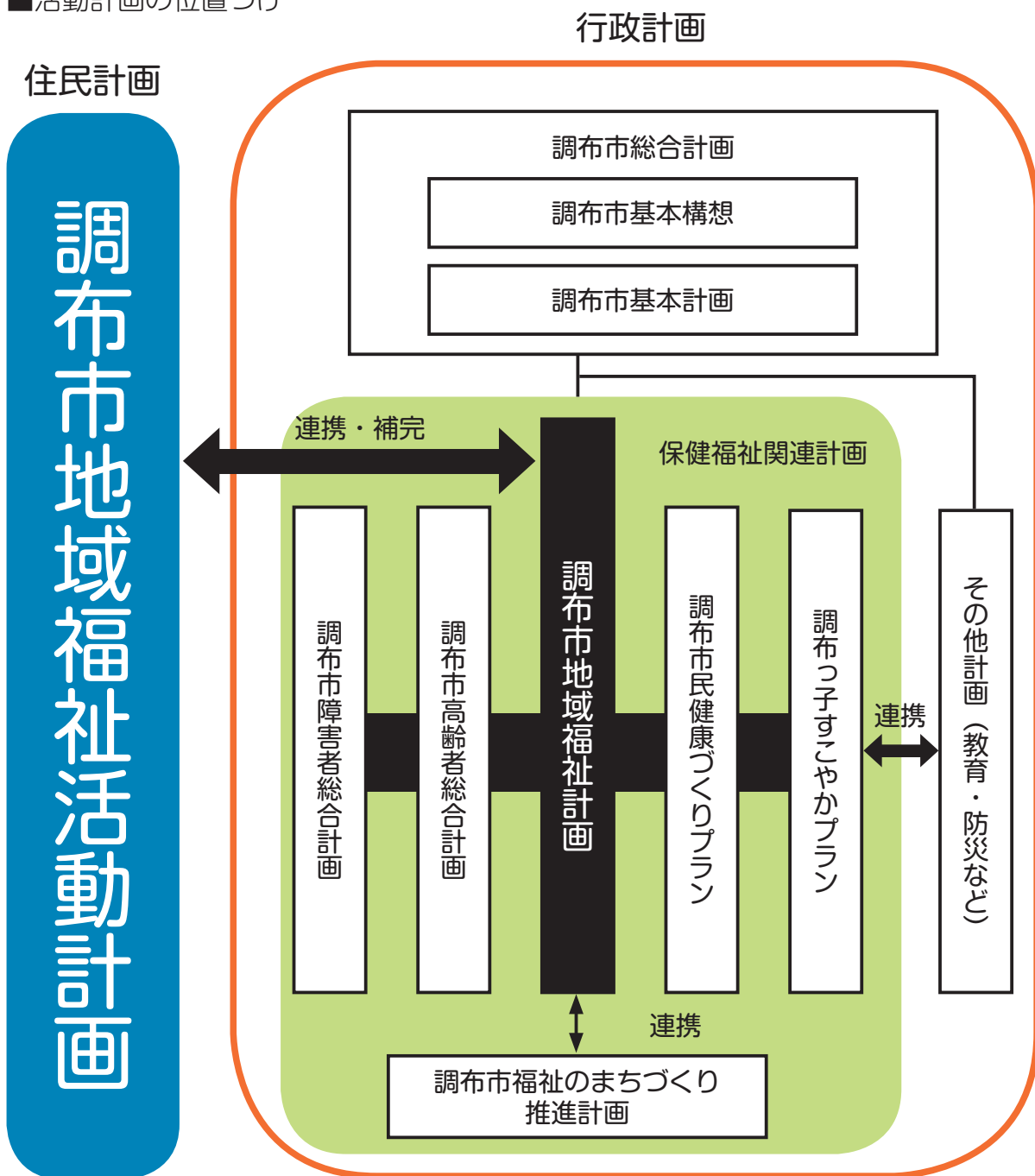
### 3 活動計画の位置づけ

本計画は、住民や福祉事業者などの協働により、地域福祉の推進のために取り組んでいくことをまとめた民間の行動・活動計画です。

一方で、調布市では高齢者や障がい者などの分野別計画を地域という視点で横断的につなげ、これからの福祉の将来像、理念や仕組みなどをまとめた「調布市地域福祉計画」(行政計画)を策定しています。

地域福祉の推進を図るためには、両計画が車の両輪となり、相互に連携・補完しながら一体的に取り組んでいくことが求められます。

#### ■活動計画の位置づけ



## 4 活動計画の歩みと成果

### (1) 第1次～第4次活動計画の歩み・概要

#### 第1次：平成7年度～11年度

- ・「だれもが参加する」「ともに考える」「みんなで創る」を基本目標に、以下の4点を柱としました。
  - ①市民の自主的な活動の促進
  - ②自ら問題解決するための支援システムの確立
  - ③多様なニーズに対応できる相互支援体制の整備
  - ④計画の推進体制の整備
- ・ふれあいサロン（現：ひだまりサロン）の設置が計画されました。



#### 第2次：平成12年度～16年度



- ・以下の6つの柱のもと、小地域交流事業やふれあいサロンの充実を目指しました。
  - ①小地域における福祉のまちづくり
  - ②ボランティア・市民活動の展開
  - ③時代の変化に対応する新たな役割への取り組み
  - ④再編成の必要なサービス提供事業
  - ⑤施設運営の充実と地域社会へのサービス拡大
  - ⑥社会福祉協議会の基盤整備

### 第3次：平成17年度～21年度

- ・以下の4つの柱を掲げ、地域福祉活動の充実に取り組みました。
  - ①身近な地域での福祉活動をすすめます。
  - ②市民活動の支援を充実させます。
  - ③知りたい・伝えたい情報が行き交う地域づくりをめざします。
  - ④地域福祉を推進するための基盤整備をすすめます。
- ・「DE-BANDA！（出番だ!）」を標語に、地域活動への参加を呼びかけました。



### 第4次：平成22年度～26年度 見直し：平成24年度～29年度



- ・第3次の4つの柱を継承し、その中でも「身近な地域での福祉活動をすすめます」を重点項目としました。
- ・地域福祉コーディネーターの配置が計画されました。
- ・調布市の地域福祉計画と推進期間を合わせるため、見直し計画を策定しました。
- ・見直し計画では、調布市が設定している10の圏域ごとの地域性や課題に着目し、小地域での福祉活動の推進に重点が置かれました。

### 第5次へ

## (2) 第4次活動計画の成果

### 柱1 身近な地域での福祉活動をすすめます

#### 計画(1) 住民同士が知り合う機会を増やします

計画	結果
重点項目 A 住民の交流を目的とした活動の実施（小地域交流事業）	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民や関係機関などの参画による実行委員会の企画・運営により、市内13か所で実施しました。</li><li>・平成28年度の参加者は延べ8,135人（平成23年度5,690人）、スタッフは延べ885人（同611人）と、交流の輪が広がりました。</li><li>・学校や福祉施設など、新たな参加団体が増えました。</li><li>・中学生や高校生がボランティアとして参加している地域もあり、地域活動に参加するきっかけとしても機能しています。</li></ul>
重点項目 B サロン活動の展開（ひだまりサロン事業）	<ul style="list-style-type: none"><li>・平成23年度末は45か所でしたが、平成30年1月末現在110か所となりました。</li><li>・参加者数は延べ33,000人以上（平成28年度末）にも及び、住民同士のつながりが広がりました。</li><li>・スタッフ数は平成23年度末の約470人から、平成28年度末は約810人となり、地域活動に参加する方の増加にもつながりました。</li></ul>

#### 計画(2) 地域住民や関係機関、団体などが支えあう地域をめざします

計画	結果
重点項目 C 身近な地域でのつながりを強化します（地域の情報交換会）	<ul style="list-style-type: none"><li>・調布市が実施する住民懇談会や地域福祉計画地域別説明会に協力し、地域課題の把握に努めました。</li><li>・地域福祉コーディネーター（CSW）が配置されている地域では、集合住宅における住民懇談会の開催を働きかけた結果、新たな活動の創出につながる事例もありました。</li></ul>
重点項目 D ゆるやかな見守りの輪を広げます	<ul style="list-style-type: none"><li>・ひだまりサロンなどを通じて、見守りの輪は広がっています。</li></ul>



計画(3) 小地域福祉活動の拠点を強化し、地域福祉コーディネーターを配置します

計画	結果
重点項目 E 社協拠点の機能強化と拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障がいがある方の日中活動の場が不足しているというニーズを受け、平成25年度に知的障がい者生活介護施設「希望の家深大寺」が開設されました。</li> <li>・「希望の家深大寺」は、地区協議会の会議や当事者団体の講演会などにも活用され、住民の活動の拠点となっています。</li> </ul>
重点項目 F 地域福祉コーディネーターの配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度に南部地域及び北部地域に各 1 人モデル配置されました。</li> <li>・平成27年度に本格実施となり、東部地域及び西部地域に各 1 人増員され、4 人体制になりました。</li> <li>・既存の公的サービスだけでは十分な対応ができない方などに対し、住民や関係機関などと連携しながら、課題の解決を図っています。</li> <li>・子ども食堂やひだまりサロンなどの住民主体の活動の立ち上げや、様々な機関・団体のネットワーク化に取り組んでいます。</li> </ul>

## 柱2 市民活動（ボランティア・NPO）をゆたかにします

計画	結果
計画(1) 身近な地域で活動できる人材が育ち、力を発揮できるよう支援します	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域交流事業で、小中高生のボランティアが活躍できる場づくりに取り組みました。</li> <li>・市民交流事業「えんがわフェスタ」において、日頃忙しい30～40代が社会参加に一步踏み出す機会をつくりました。</li> <li>・NPOの立ち上げ、資金調達、企業との連携につながる講座を開催しました。</li> <li>・サマーボランティアや福祉体験出前講座で、児童・生徒の活動体験の場づくりに取り組んでいます。</li> </ul>
計画(2) 身近な地域で活動しやすい環境をつくります	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動支援センターの各コーナーにおいて、地域の実情に合わせた事業を地域の方々と連携し実施しました。</li> <li>・チャリティーウォーク、こども遊び博覧会、防災まちあるきなどのプログラムを通じて、市民活動団体や市民のつながりづくりに取り組みました。</li> <li>・「えんがわファンド」で資金面から市民活動団体を支援し、助成団体間の交流が生まれる仕組みづくりに取り組みました。えんがわファンドへの寄付も市民活動参加の第一歩となっています。</li> </ul>

### 柱3 知りたい情報と伝えたい情報が行きかう地域をめざします

計画	結果
計画(1) 調布社協だより「ふくしの窓」による広報を充実させます	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの市民に分かりやすく親んでもらうために、モニターの意見を反映しました。平成30年度からの毎号カラーを検討しました。</li> <li>・調布市内全戸へのポスティングを実現し、配布は調布市福祉作業所等連絡会と調布市シルバー人材センターに依頼しています。</li> </ul>
計画(2) 情報を伝えあう地域のつながりを広げます	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを充実させ、イベント・講習会などの情報をわかりやすく提供しています。</li> </ul>

### 柱4 地域福祉を推進するための基盤を整備します

計画	結果
計画(1) 小地域福祉をすすめるための運営体制を整えます	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協職員が小地域に向き合えるように、すべての正職員が小地域交流事業を担当するとともに、定期的に研修を重ねました。</li> </ul>
計画(2) 小地域福祉をすすめるための財源、人材を確保します	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小地域交流事業」、「ひだまりサロン」の充実の財源である、社協会費及び歳末たすけあい募金は、増収の運動に反して減少が続いています。</li> </ul>



### (3) 小地域における第4次活動計画の推進結果

平成24年度の見直し計画の策定に併せ、市全域の推進委員会を組織し検討を進めてきました。しかし、地域性に即した議論が難しいこと、平成25年度に地域福祉コーディネーターが2つの地域にモデル配置されたことから、地域ごとに住民や関係機関の参画による推進委員会を立ち上げ、課題の整理や取組の検討を進めていくことになりました。その結果、各地域で様々な取組が立ち上がりました。

## 南部地域

### 子どもの居場所づくり (平成26・27年度)

南部地域では、『①年齢や性別、障がいの有無に関係なく誰もが日常的に知り合いになれる場』『②子どもの学習支援の場づくり』を柱に話し合いを進めました。その後、小学校区ごとの特徴があることがわかり、2つの部会に分けられました。

杉森小学校区では映画会、雑巾縫い、ポッチャなどを開催し検討した結果、Omisoプロジェクトチーム子どもの居場所づくりが立ち



ち上がりました。



また、国領小学校区では、野川の観察会や書初め体験を通して、大人と子どもが顔見知りになり、あいさつや立ち話ができる関係づくりが広がっています。現在は地区協議会の取組の一つとして継続しています。

## 北部地域

### 朝市の開催 (平成26・27年度)

北部地域では、「買い物ができる場所が少ない」「子育て世代が増えている一方、高齢者も多い。世代間交流が必要」「地域住民が交流できる場所が欲しい」など、様々な地域課題が出されました。

こうした課題の解決を図るため、畑が多数ある地域性を生かし、野



菜販売や昔遊びなどで住民同士が交流する「ふれあい朝市」を、保育園をお借りして開催することになりました。

現在は地区協議会が主催となり、福祉施設の協力を得た送迎バスの運行など、新たな取組も取り入れながら継続的に開催されています。



## 東部 地域

### おせっかいの輪 (平成28・29年度)

東部地域では、「子どもが安心して遊べる場所が減ってきている」などの課題が出されました。この課題を解決するため、子どもの遊び場・学び場づくりを通して大人と子どもが交流する「おせっかい広場」という取組を始めました。

「大大大オセロ大会」を緑ヶ丘小学校で実施。



その後、「夏休み宿題かけこみ寺 (学習サポート)」や、「まつぼっくりツリーづくり」などのイベントを、小学校、児童館、地区協議会などの協力を得ながら実施してきました。

今後、地域におせっかいサポーターが増え、遊び場・学び場をとおして自然と大人が子どもに関わっていける地域になることを目標に活動を継続していく予定です。



## 西部 地域

### 活動団体の交流 (平成28・29年度)

西部地域では、サロンやボランティア活動、サークル活動、地域行事が活発です。しかし、「それぞれの団体同士の横のつながりがない」「地域活動に参加したいと思っている人に情報が届いていない」「地域行事に参加したいけど入りづらい」という意見が出ました。

これらの課題を解決するために、団体同士が顔見知りになり、情報が行き交う地域にしようということで、活動団体交流会を開催しました。



また、夏には盆踊りの練習を行い、富士見町盆踊りでは久しぶりに大きな輪ができ、交流を深めることができました。

今後は地域の情報を発信し、行事などに参加しやすい仕組みづくりや、各団体の悩みや取り組みたいことを一緒に考える場づくりも行っていく予定です。



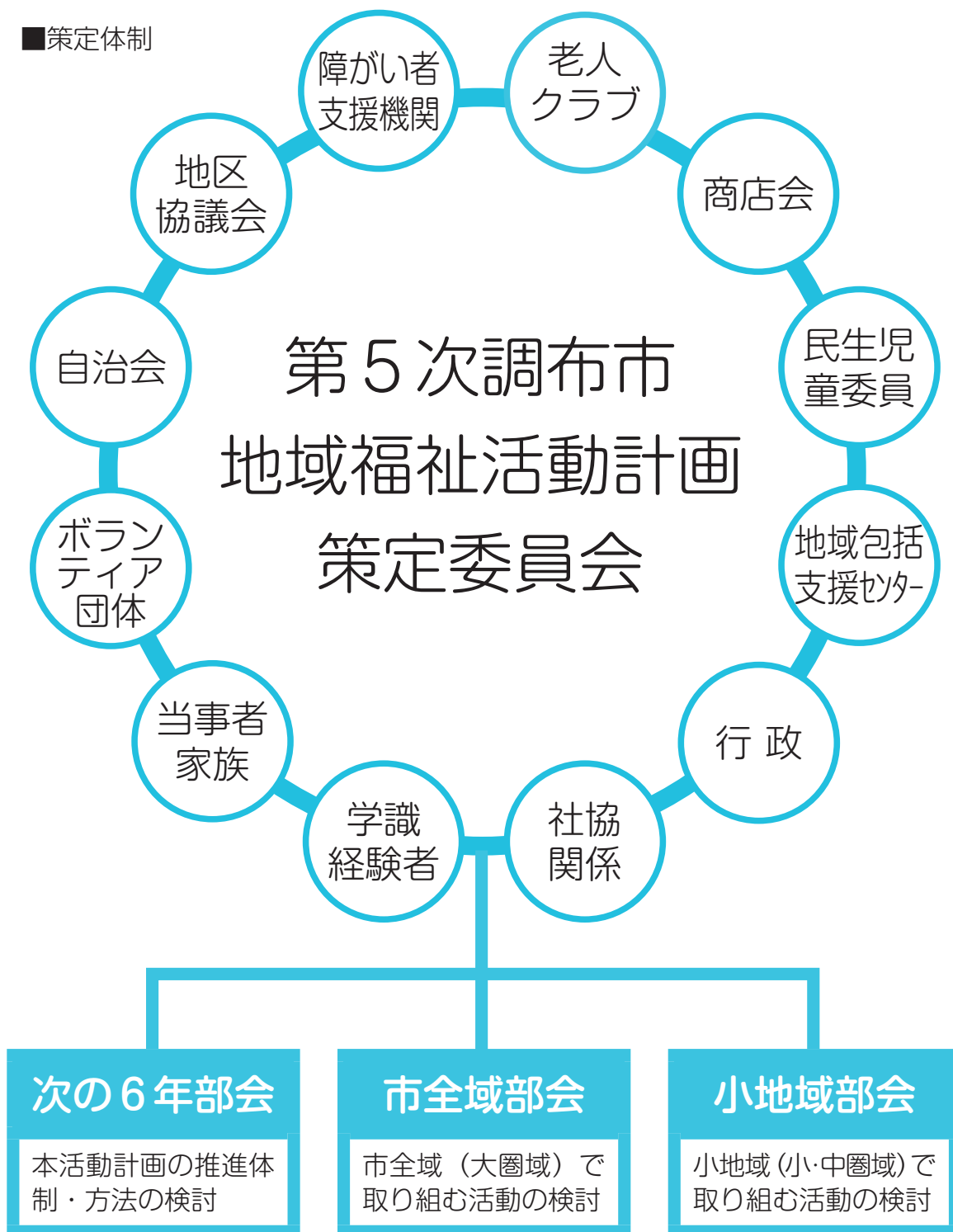
## 第2章 第5次活動計画の概要

### 1 策定体制

地域住民、関係機関、行政などの参画による第5次調布市地域福祉活動計画策定委員会を組織しました。

また、策定委員会の中に3つの部会を設置し、各項目の具体的な内容について、「住民が主体でできること」、「地域の中でできること」を検討しました。

#### ■策定体制



## 2 スローガン

### 「ここがいい ここでいい わがまち調布 これからも」

私たちのまち調布が、だれもが自分らしくいられ、居心地の良さを感じ、いつでも、いつまでも活動に参加できる、出会いのあるまちであることを目指した合言葉です。

## 3 推進期間

平成30年度（2018年度）～平成35年度（2023年度）の6か年

調布市地域福祉計画（行政計画）と計画期間を一致させ、相互に連携・補完しながら計画を推進していきます。

計画名	年度											
	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
調布市地域福祉活動計画	見直し計画					本計画期間						

調布市総合計画	基本構想											
	前期基本計画											
			改定基本計画				後期基本計画					
調布市地域福祉計画							計画期間					
調布市高齢者総合計画 (老人福祉計画、介護保険事業計画)								計画期間				
調布市 障害者 総合計画	調布市障害者計画							計画期間				
	調布市障害福祉計画								計画期間			
	調布市障害児福祉計画							計画期間				
調布市民健康づくりプラン							計画期間					
調布っ子すこやかプラン (調布市子ども・子育て支援事業計画)				計画期間								
調布市福祉のまちづくり推進計画							計画期間					

## 4 基本目標

---

### 基本目標1 向こう三軒両隣、つながる広がるまちづくり

近隣の住民同士が顔見知りになり、気軽な情報交換ができて、一緒に活動することで、さらに住民同士の知り合いの輪が広がる取組を考えていきます。

### 基本目標2 居心地のいい場がそばにあるまちづくり

誰もが気軽に楽しく立ち寄れる場所を増やし、地域でつながる、地域がつながる居場所づくりを考えていきます。

### 基本目標3 ひとりの悩みをみんなで考えるまちづくり

困ったときに、身近に相談できる場所があり、悩みを共有してくれる人がいる、誰もが安心して生活していけるまちづくりを考えていきます。

### 基本目標4 身近な情報が行き交うまちづくり

地域のネットワークを生かした情報収集・発信を通して、必要な人に必要な情報が伝わるようにするために、身近なところから情報を共有する仕組みをみんな考えていきます。

### 基本目標5 互いの理解が深まるまちづくり

人と人が出会う多様な機会をつくり、接する・体験することで互いに理解を深め、また参加したくなる取組を考えていきます。



## 5 圏域（範囲）の考え方

### (1) 3層構造の圏域

地域福祉を進めていくためには、市全体で取り組むこと、市内各地域で取り組むこと、市民が暮らす身近な地区で取り組むことなど、それぞれの範囲の特徴を生かした活動を展開していくことが重要です。

本計画では、調布市が設定する3層構造の圏域をもとに、活動の推進を図ります。

#### ■圏域

#### 【大圏域】市全域

中圏域や小圏域では取り組みにくい活動や、市全域で取り組んだ方が効果が高い活動などを行います。

#### 【中圏域】福祉圏域

各種団体・機関の連携を図り、課題の掘り起こしを行うとともに、それを解決する活動の開発などに取り組みます。

#### 【小圏域】小学校区域

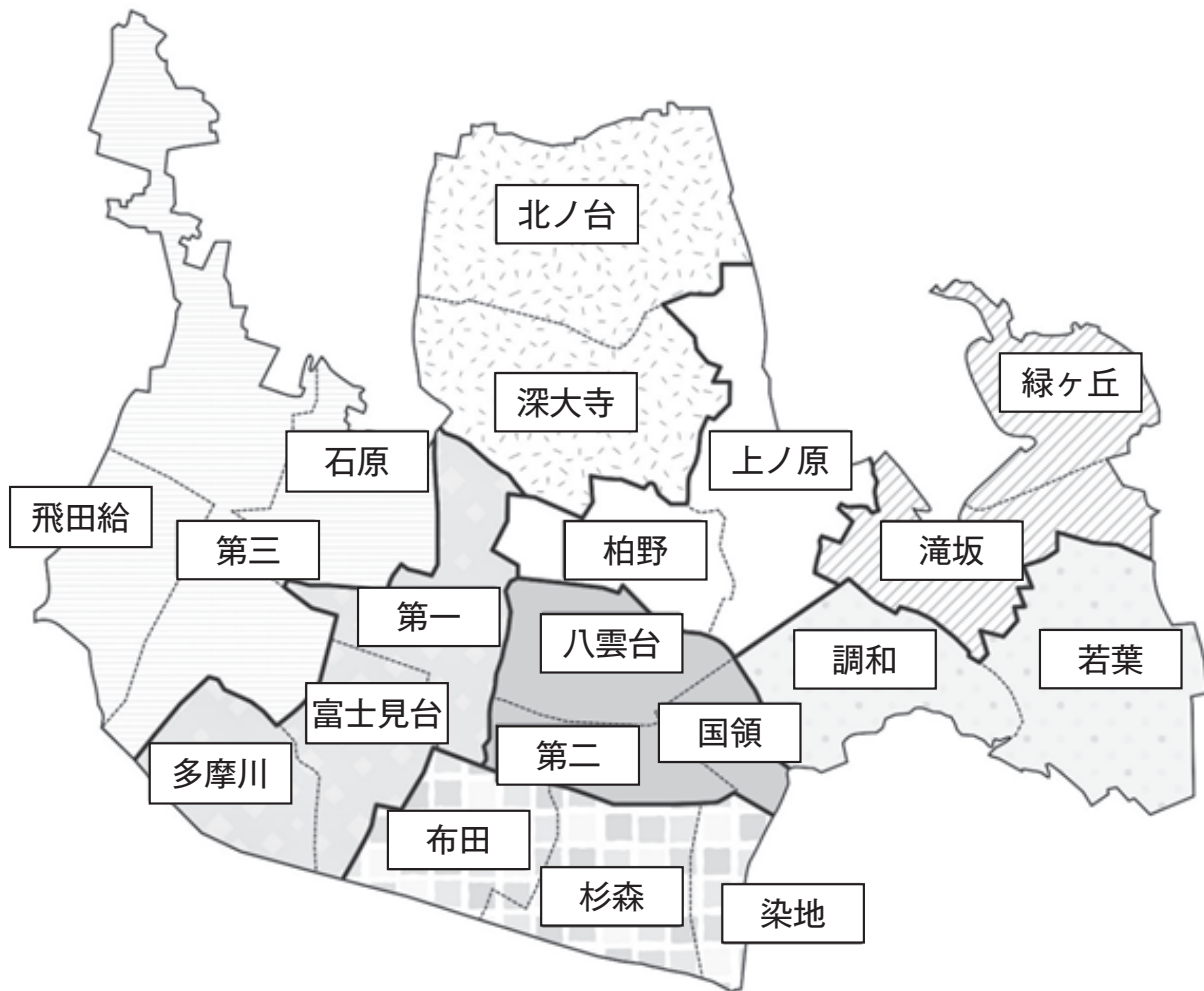
小学校区内の各種団体・機関などの連携を図ります。また、学区域内の課題の解決に向けた活動を行います。

自治会、隣近所など見守りやつながりづくりなど、身近な福祉活動に取り組みます。

## (2) 福祉圏域

調布市が設定する福祉、教育、防災、地域コミュニティなどの共通基盤である小学校区域を基礎とし、それら複数で構成される8つの圏域です。

### ■福祉圏域の区分



※上記□内の記載は、小学校区の名称です。

# 第3章 体系、基本目標及び活動内容

## ■第5次活動計画体系図

### 基本理念

いつまでも住みつづけたいと思う  
まちづくりをめざして

～ここがいい ここがいい わがまち調布 これからも～

#### 基本目標1

向こう三軒両隣、つながる  
広がるまちづくり

#### 活動1

近所でできる身近な交流活動  
から始めよう

#### 基本目標2

居心地のいい場がそばにある  
まちづくり

#### 活動2- (1)

誰もが安心して集える場を増  
やそう

#### 活動2- (2)

公園など誰でも利用できる場  
で世代間交流をしよう

#### 基本目標3

ひとりの悩みをみんなで考え  
るまちづくり

#### 活動3

誰でも悩みを相談できる場を  
増やそう

#### 基本目標4

身近な情報が行き交うまちづ  
くり

#### 活動4

話題に花咲く掲示板や回覧板  
を作ろう

#### 基本目標5

互いの理解が深まるまちづく  
り

#### 活動5

知る・接する・体験する機会を  
できることから試してみよう

地域と地域が「名刺」交換でつながろう

## 基本目標 1 向こう三軒両隣、つながる広がるまちづくり

### 【現状】

調布市では年々自治会加入率が減少し、自治会に加入していない世帯や自治会がない地域が増加しています。

「平成28年度調布市民福祉ニーズ調査」によると、近所づきあいをしていない人は18歳～64歳では19.2%、65歳以上では9.3%となっており、18歳～64歳は平成16年度以降の調査で最大となっています。近所づきあいが無い理由としては、「普段つきあう機会がない」が18歳～64歳では67.1%、65歳以上では46.0%と最も多く、つきあいたいという意思があっても、なかなか参加する機会や情報が少ないといった状況が見受けられます。

### 活動紹介①

#### 入間町一丁目自治会ラジオ体操

毎年、5月のゴールデンウィーク明けから10月第1金曜日までの平日に、NTT中央研修センタの広場を利用してラジオ体操を行っています。

平成16年から続いており、地域問わず毎回約30人前後の方が体を動かしています。夏休みは、子ども会と連携し、100人以上が参加することもあります。

コミュニケーションの場、防火や防犯対策、子ども達に継続することの大切さを知ってもらう良い機会となっています。



### 活動紹介②

#### 上ノ原まちづくりの会

平成16年に地区協議会として設立し、ゴミ拾いをしながらの登下校の見守りや美化活動に取り組んでいます。



また、地域住民のふれあい交流やコンサートの開催、定期的に三校連絡会を行い、三つの学校と地域住民が情報交換し、協力して地域全体の防犯や防災など、顔の見える関係で活動しています。

## 活動1

# 近所でできる 身近な交流活動から始めよう

住民や自治会・団体が企画した魅力的な取組は、若者や転入者世帯も興味を引きます。また、各地域の独自のアイデアや活動を知って、自分の地域にも取り入れたいという地域もあります。

特に、働いている世代や、子育て世代が気軽に参加できる活動があると次世代への活動の発展にもつながっていきます。




様々な世代が参加できる活動をつくり出しましょう。

### 取組例

- 既存の清掃美化活動・防犯活動などによる交流の推進
- 地域住民による共有スペースの「雪かき」や「落ち葉掃き」を通して生まれる交流
- ひだまりサロンのミニ版（少人数版）
- 住民同士の交流活動
- 椅子を置いた休憩場所の設置と活用



### 委員の思い

-  子どもたちの下校を見守るパトロール（レジ袋、トング持参の清掃活動）は、通りすがりの人とも気軽に挨拶できることが嬉しいです。
-  お互いの家の前の清掃や雪かき、回覧板の手渡しなど近所のふれあいを通して、また「男性の料理教室」の実施で会食時の少々のお楽しみなどで、男性の交流の場ができるといいなと思います。
-  ご近所同士の付き合いが減り、困りごとがあってもどこへ相談してよいか分からず、孤立しないように、ご近所同士の挨拶や気軽に集まれる場所が徒歩圏内にあると参加しやすくなると思います。





## 基本目標2 居心地のいい場がそばにあるまちづくり

### 【現状】

「好きなときに自由に、勉強や休憩等に使えるフリースペース」、「いつでも気軽に立ち寄って、お話やお茶を楽しめる地域の居場所づくり」など、好きなときに気軽に立ち寄れる場所が欲しいという「平成28年度調布市民福祉ニーズ調査」の結果が出ています。

また、現在、高齢化・人口減少・住宅の老朽化など、様々な要因で空き家が社会問題となっています。商店街においても、閉店や撤退など様々な理由で空き店舗が目立つようになってきています。いずれの場合も空き家状態により、有効活用に至ってはいません。

### 活動紹介①

#### 野ヶ谷の郷（深大寺東町）

平成16年に、梅の湯商店街の空き店舗を改装して設置された、住民誰もが利用できる地域の拠点。

「であい・ふれあい・支えあい」をモットーに、互いに支え合う地域をめざし、住民ボランティアが運営しています。

気軽に話したいことを話したり、ちょっと立ち寄ってお茶を飲んだり、まちの耳寄りな情報を教えてもらったり、来た人それぞれが自分らしく過ごせる場所です。



### 活動紹介②

#### ぷくぷく・ポレポレの家（布田）



庭に草木がある古い民家を利用したみんなの居場所（平成25年5月からスタート）。

赤ちゃんともママがのんびりと過ごせ、地域の方たちも気軽に立ち寄り、世代間交流を楽しみながら、互いに支え合う居場所です。

## 活動2 - (1)

# 誰もが安心して集える場を増やそう

歩いて行ける距離にふらっと立ち寄れる場所があると、隣近所の人と知り合うきっかけができます。空き家や空き店舗を上手に活用して、より身近な地域で活動できる場所を知ったり、みんなで作り出したり、自分の住んでいる地域を知るきっかけづくりを進めましょう。

### 取組例

- 野ヶ谷の郷のような、「また来たい」と思える居場所づくり
- 空き家、空き店舗、小学校の空き教室などを活用した居場所づくり
- 男性が参加しやすい居場所づくり

### 委員の思い



地域の活性化を目的としたふれあいの場「野ヶ谷の郷」は、家主さんのご厚意、社協からの活動資金、人的支援を受けての立ち上がりでした。試行錯誤を重ねながらも、誰もが気兼ねなく立ち寄れる場となり、利用する皆さんに感謝の気持ちで一杯です。

## 活動2 - (2)

# 公園など誰でも利用できる場で 世代間交流をしよう

交流の拠点は調布市内に多くありますが、そこまで出掛けることが困難な方でも、近所の公園まで行くことは容易です。公園は、約束や予約をしなくても気軽に立ち寄ることができ、子育ての悩み、介護の悩み、趣味の話、会話を楽しむなど、世代を超えてコミュニケーションが取れる場所となります。公園の良さを再発見し、活用の方法を考えていきましょう。

### 委員の思い



公園を散歩しながら「こんにちは!」、体操をしながら「おはよー」なんて声を掛け合ったらさわやかな気持ちになれます。また元気な子どもたちの声を聞きながらお母さん同士の井戸端会議、平和な感じがします。近隣意識が薄い若い世代でも、近くの公園でイベントをやっているのなら、何をやっているのかな?とふらっと立ち寄るかもしれません。“気軽さ”が若い世代を引き込むポイントだと思います。



## 基本目標3 ひとりの悩みをみんなで考えるまちづくり

### 【現状】

「平成28年度調布市民福祉ニーズ調査」によると、8割以上の人は地域で何らかの不安や課題を抱えており、そのうち1割程度の方は「身近な相談先が少ないこと」に不安を感じています。

高齢者のひとり暮らしの割合は年々増加しています。同調査で「身近に相談できる人・機関はない」という人の家族構成別の割合は、ひとり暮らしの人が特に多くなっています。

また、同調査の自由意見では、保育や子育てについての意見が2番目に多く出されており、子育てに関する市民の関心の高さがわかります。住民懇談会においても、子育ての悩みが相談できる場所が必要、という意見が出されました。

高齢者世帯にとっても、子育て世帯にとっても、身近な相談場所を増やしていくことが求められています。

### 活動紹介

#### ゆうあい 『友愛』～調布市老人クラブ連合会～

調布市老人クラブ連合会では、『友愛』という活動を行っています。地域に分化した各会での近隣への訪問活動、地域のお祭り参加、小規模のイベント開催、連合会全体での研修会など、いろいろな活動を継続することで顔のつながった関係を維持し、お互いがお互いを見守り合う活動となっています。

「ひとり暮らしの方が増え、近所のふれ合いが希薄になってきている。もう少しお互いが近くにいたらいいなと思います」と担当の方は語ります。近所のつながりを大切にしたい活動です。



## 活動3 誰でも悩みを相談できる場を増やそう

市内には相談できる場所、窓口などが増えています。しかし、「どこに相談したら良いかわからない」という声も聞かれます。相談できる場を増やすだけでなく、より身近で、誰もが気軽に相談できる場を充実させていくことが必要ではないでしょうか。

利用したことがない窓口よりも、既に関わりのある場所や相手の方がより相談しやすい、という視点から、小さな相談事でも受付けてくれる場や人をつくと同時に、気軽に相談できる関係性を積極的に広げていくことも大切にした取組をつくっていきましょう。

### 取組例

- ちょっぴりお助け隊
- 気軽におしゃべりできる場所（カフェなど）
- 地域なんでも相談、無料相談所
- 月1回の訪問活動

### 委員の思い



「相談」は、健康なときは「小さい響き」、不安がいっぱいになると「大きな響き」。みんな同じ思い。相談したり、相談されたり、お互いさまに寄り添うまちをつくりたい。



「今日、スーパーの駐車場に移動カフェが来るの。みんなで行ってみよう」「相談員の方がいるの。ちょっとした事話せるよ」というような会話が行き交う優しい笑顔があふれる調布をこれからも。



## 基本目標 4 身近な情報が行き交うまちづくり

### 【現状】

単身世帯の増加や家族のあり方の変化、近隣関係の希薄化などの理由で身近な地域情報が以前より広がりにくい現状があります。社会や地域から孤立しがちな人、耳や目が不自由なため情報量が不足している人などへの情報は、ますます行き届きにくい社会になっているのではないのでしょうか。

またインターネットの普及によって情報のあり方が多様化し、利便性が向上したと思える反面、自身にとって必要な情報の取捨選択は、情報機器を使いこなせない人にとっては難しくなっています。

そこでこれからは、身近なところで必要な情報が行き交う地域づくりが望まれます。

### 活動紹介

#### 深大寺元町一丁目自治会ニュース『南深大寺』

深大寺元町一丁目自治会では年2回、会報誌を発行しています。編集委員が写真を撮影し、文章の作成やデザインを行っています。自治会としての会報誌ですが、市全域に向けて積極的に配布し、地域の情報を発信しています。

また、地域の情報を発信するだけでなく、情報を通して市民のつながりを広げ、近所で助け合える「絆」を構築していくという視点を大切にしています。



## 活動4

# 話題に花咲く 掲示板や回覧板を作ろう

イベントや市民団体の活動などの地域情報をどのような形で発信し、伝えたい人に伝えることができるか、このような悩みはつきることがありません。

また情報を受け取る側にとっても「こんな大事な情報を知っていれば助かったのに」と残念に感じることも多いと思います。

そのためにも地域のネットワークを生かした情報収集・情報共有を通して、大切な情報が必要な人に伝わるようにするために、身近なところから情報を共有するしくみをつくりましょう。

### 取組例

- 「回覧板」の工夫
- 自治会の会報紙などの身近な便りの活用
- 新聞折り込みなど、多くの人に知ってもらえる手段を考える
- ネットワークを活用して口コミで情報を伝える
- 多くの人が活用するスーパーや公共施設などの掲示板活用

### 委員の思い



世の中は情報の洪水・・・とも言えるくらいに種々様々な情報に溢れています。むしろ、本当に必要な情報へ到達するのは、難しくなっているかもしれません。スマートフォンなどが普及し、印刷された文字情報は減少の方向にもあります。慣れ親しんできた伝達方法を活用して、すこしでもギャップを埋めていきたいものです。





## 基本目標 5 互いの理解が深まるまちづくり

### 【現状】

「平成28年度調布市民福祉ニーズ調査」によると、地域のつながりについて9割の方が必要だと回答している一方で、地域のつながりを感じる方は半数以下にとどまっています。

障がいのある方の2割から3割の方は、偏見や差別を受けた経験があると回答しています。

また、地域活動では、関心のない方にどのように声をかけをしたら、関心をもってもらえるか苦慮している現状があります。

本計画のスローガン「ここがいい ここがいい わがまち調布 これからも」にある居心地のよい調布のまちを目指すには、そもそもつながっていないから、知らないという課題があるのではないのでしょうか。

### 活動紹介①

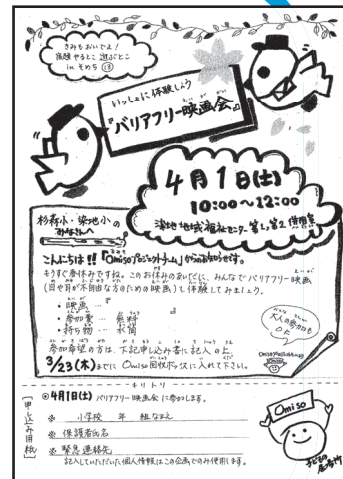
#### おみそ で ま えちようふ 「Omiso」が「DEMAE 調布」とコラボ

毎月1回、染地地域福祉センターで子どもの居場所としてプログラムを実施しているおみそ。

障がいのある方や高齢者など誰でも楽しめる『バリアフリー映画体験会』のプログラムを展開するボランティアグループDEMAE 調布。両者がコラボで実施。体験を通して、理解を深める機会をつくりました。

※「Omiso」はP 8を参照。

正規式名称は、「Omiso プロジェクトチーム 子どもの居場所づくり」



### 活動紹介②

#### 国領わいわいまつり「こどもボランティアセンター」

国領小学校で秋に実施する交流イベントです。地域の福祉施設、商店会、学校関係や自治会などで構成する実行委員会の発案で、「こどもボランティアセンター」を開設しました。

参加した児童は、ボランティア活動の基本を学び、実際に出展団体で活動し、その体験を参加者同士で分かち合いました。後日、参加した児童が実際に施設へ遊びに行ったという例もありました。



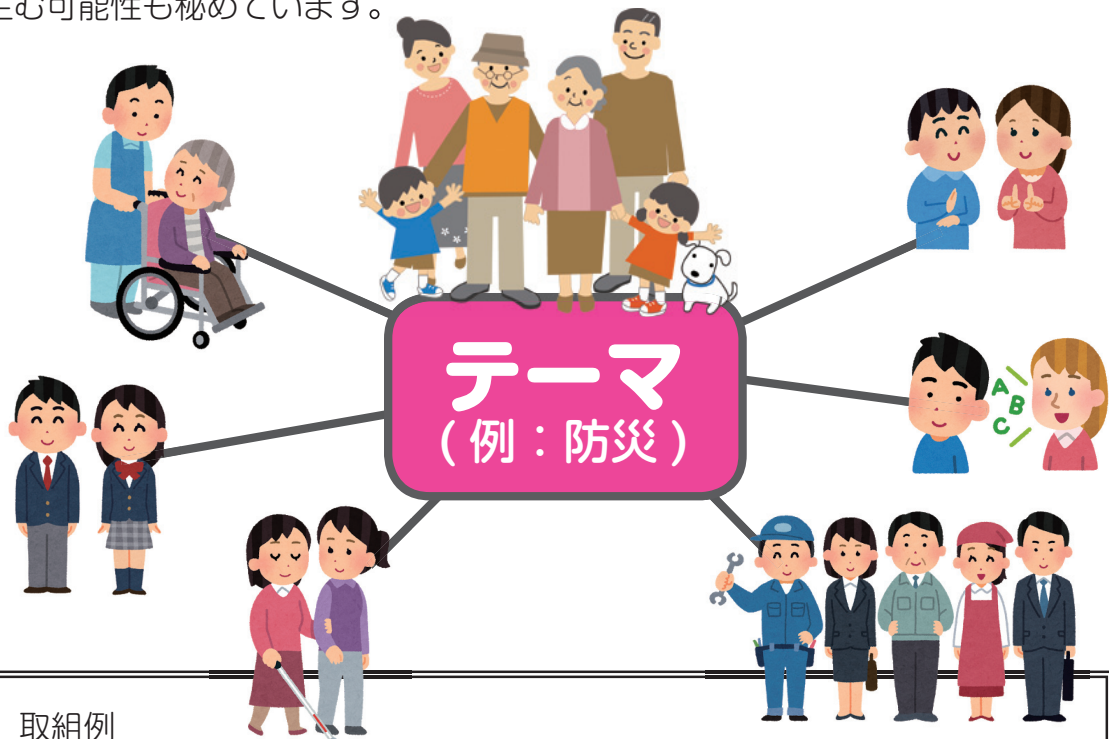
## 活動5

# 知る・接する・体験する機会を できることから試してみよう

私たちの暮らすまちには、多様な人が集まっています。

日々の暮らしの中で、日頃出会うことのない人と人が接するチャンスがあれば、お互いの存在を知り理解が進み、一人じゃないことを実感できるかもしれません。さらに、価値観やつながりが広がることで、調布のまちがさらに居心地のよいまちになることが期待されます。

そのために、多様な人が共通の関心事で出会えるよう「テーマ」を設定し、「接する」「体験する」チャンスのある取組を始めましょう。その取組は、多様な人を「知る」機会となり、同時に生きたニーズをキャッチし、次の展開を生む可能性も秘めています。



### 取組例

- 多様な人の日常生活の映像発信
- 災害や子どもの居場所などテーマを設定した「まちあるき」
- 目指そう！誰もが使える・楽しめる『調布かるた』大会

### 委員の思い



人の優しさを大切にして、将来に残るような取組にしていきたいと思っています。

## 地域と地域が“名刺”交換でつながろう

各地域において地域特性を生かした活動が行われていますが、他の地域でどんな取組がされているのかは案外知られていない状況があります。

自分の地域では当たり前になっている活動にも、他地域では「もっと早く知っていれば！」という取組もあるかもしれません。

調布市は23万人以上が暮らすまちです。各地域も縦割りにになってしまうのは、仕方のないことかもしれません。

しかし、各地域での取組（今までの取組や新たな取組）を“名刺”に託し交換をすることにより地域がつながり、相乗効果で調布での地域活動がさらに豊かなものになっていくのではないのでしょうか。

### 取組例

- “名刺”交換会
- 交流会
- 地域活動の映像発信

〇〇〇公園  
みんなでできる昔遊び会  
主催：〇〇〇

〒182-〇〇〇〇  
東京都調布市〇〇〇町〇〇〇番地  
電話番号 〇〇〇〇〇〇〇〇

### 委員の思い



地域を超えて、みんなで見えたいという思いを込めています。





# 地域の活動を通して 地域がつながっていきます

## 活動5

知る・接する・  
体験する機会を  
できることから  
試してみよう

## 活動1

近所でできる  
身近な  
交流活動から  
始めよう

## 活動2-(1)

誰もが安心して  
集える場を  
増やそう

## 活動4

話題に  
花咲く掲示板  
や回覧板を  
作ろう

## 活動3

誰でも悩みを  
相談できる  
場を増やそう

## 活動2-(2)

公園など誰でも  
利用できる場で  
世代間交流を  
しよう



# 第4章 推進

活動計画をもとに、地域で実際に活動1～5のような取組が推進されていくための仕組みについて検討しました。

## 1 活動計画の推進は誰が行うのか？

地域活動を推進するうえでは、「行政に全てお願いするだけではダメ」という意見が出されました。住民が地域の課題を自分事としてとらえるために役割を持つこと、良い活動が評価され、意欲的に取り組めることが大切だという点や、様々な個人・団体などが専門機関や企業などの協力を得て活動計画を推進できる体制とする点が方針として挙げられました。

## 2 福祉圏域ごとの推進体制へ

新しく転入してきた方が多い地域、先祖代々住み続けている方が多い地域、防災訓練が充実している地域、あまり地域の活動がされていない地域……。地域にある資源や住んでいる人の状況は大きく異なります。そのため、活動計画の推進は、調布市が設定する福祉圏域（P14）ごとに取り組むことになりました。

【地域福祉活動計画推進体制の変遷】

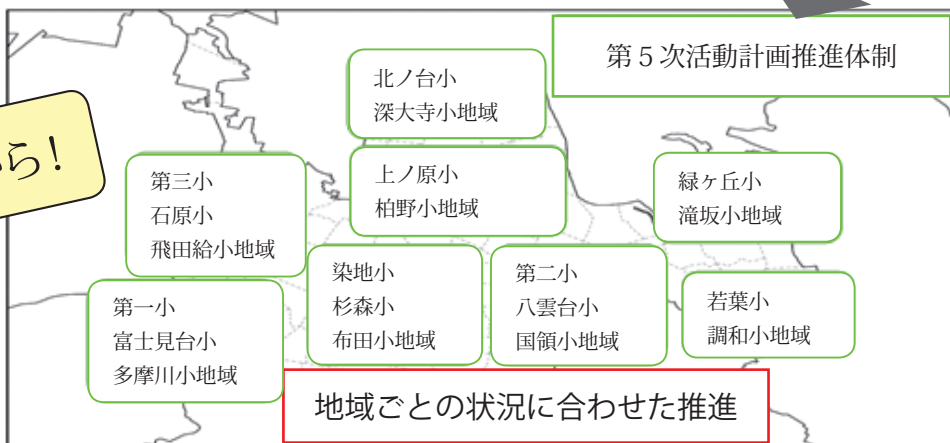


様々な地域から集まった委員が総合福祉センターで推進委員会を行い、活動計画の進捗状況を確認した。



地域福祉コーディネーターが配置された、東西南北の4地域にわかれた推進委員会を実施した。

これから!

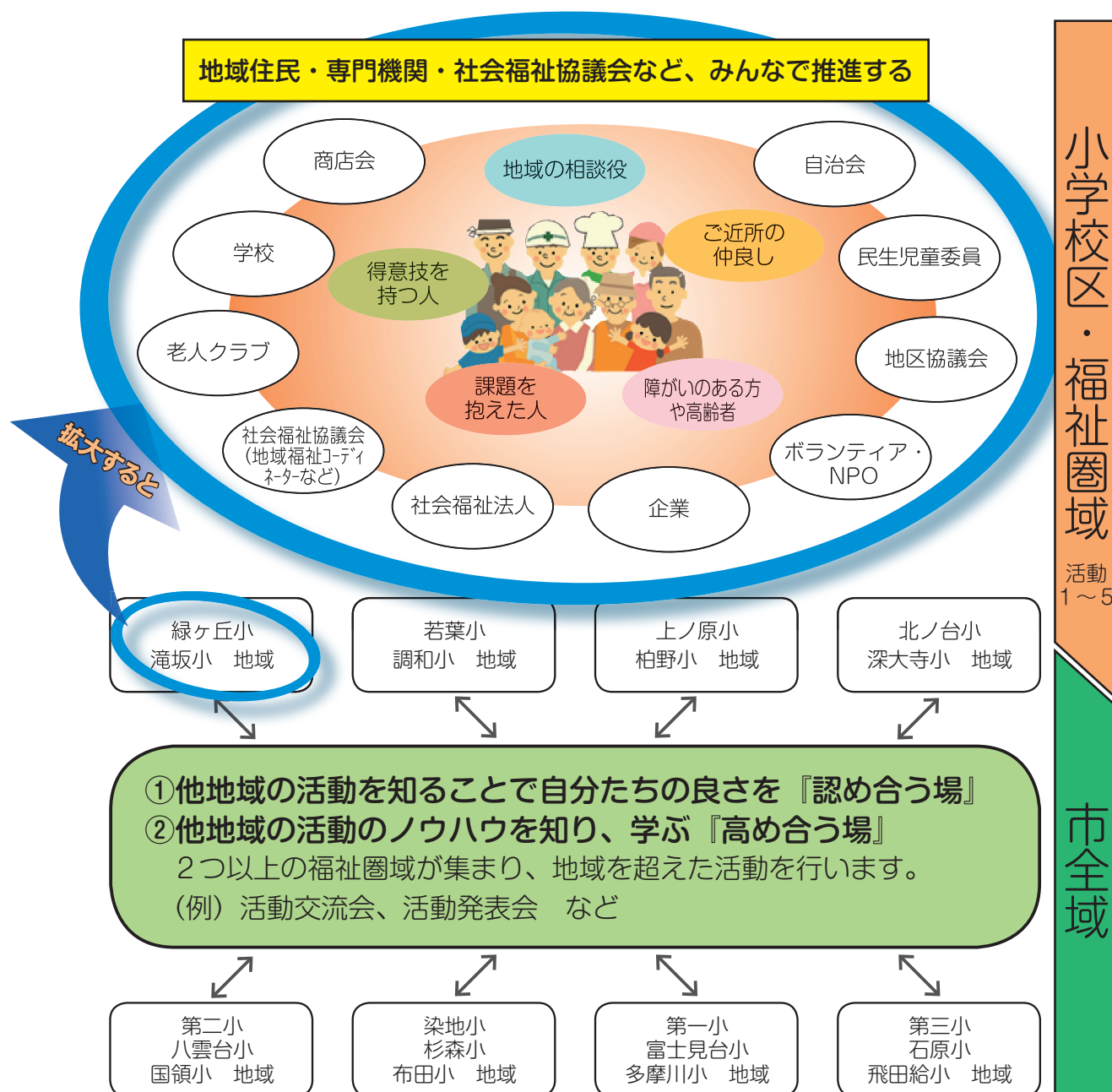


### 3 活動計画推進のさらなる発展に向けて～地域を超えた交流・学び～

地域課題に対しては、自地域だけではなく、他地域の視点や気づきを取り入れたり、他地域との比較の中で改めて自地域の良さを発見したりするなど、第三者の視点を活用することが大事ではないかという意見が多くありました。具体的な取組としては、各地域同士がお互いの活動を認め合い、高め合う場として、交流会や活動発表の場を設けることが有効とのアイデアが挙げられました。

また、交流会や活動発表会の運営は、各地域から担当者を選出して、どのような進め方がよいかについても住民主体で検討していくという意見もありました。

#### ■福祉圏域ごとの推進体制及び地域を超えた交流・学びの場のイメージ図



## 4 活動計画の推進予定

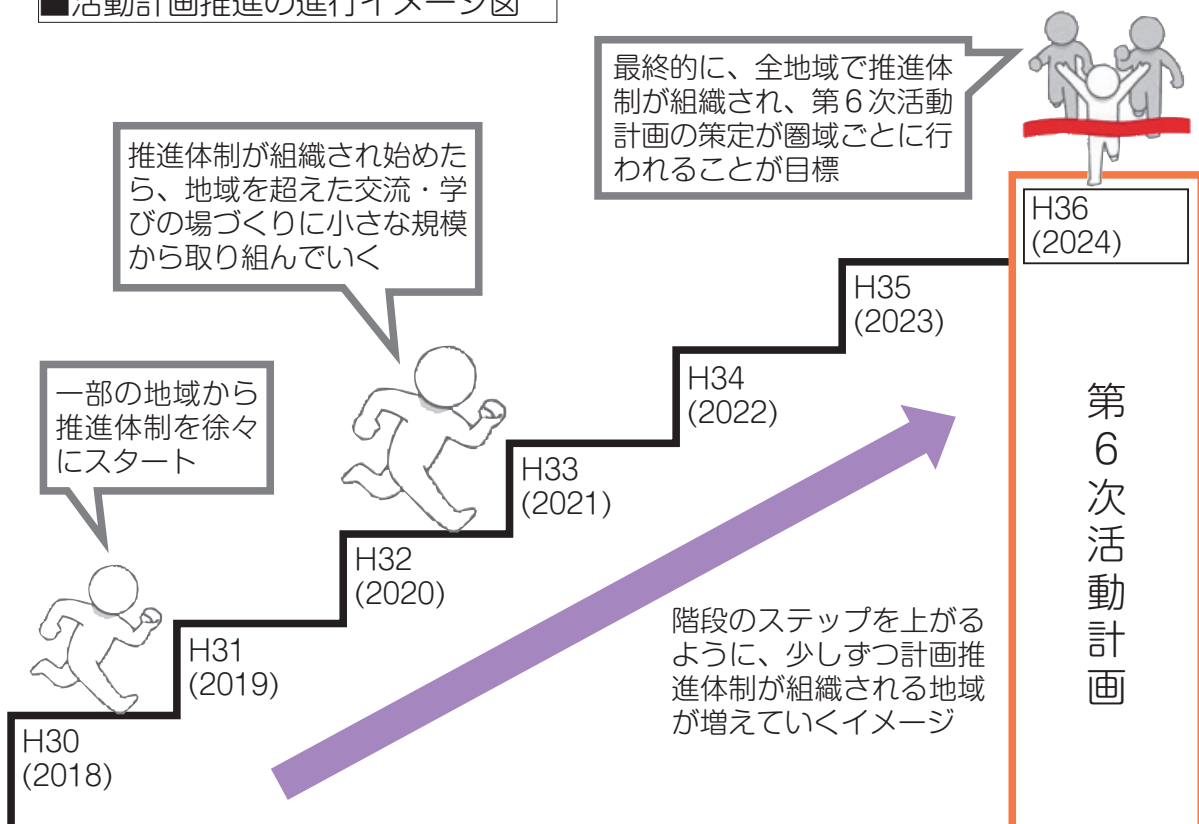
活動計画を推進する際、進め方や進捗の速度は地域の状況に応じて異なります。一部の地域から推進が始まっていき、徐々に段階のステップをあげていくように取り組む地域が増えていき、最終的に8つの福祉圏域全てにおいて活動の推進体制が組織されることを目標とします。

また、地域を超えた交流・学びの場についても、2～3圏域程度の推進体制が組織された頃から始めていき、推進体制が未整備な地域の住民も参加することで、推進体制を組織するうえでの参考にできるのではないかと議論がありました。

## 5 次期（第6次）活動計画の策定方法

活動計画の推進については、福祉圏域ごとに行っていきませんが、平成36年度から開始する次期計画「第6次活動計画」の策定についても同様に、8つの福祉圏域ごとに策定を行うことを決めました。地域住民が福祉圏域ごとに活動計画の策定から推進までを一体的に行うことで、より地域の実情を反映した、住民主体の地域福祉がさらに推進されることをねらいとします。

■活動計画推進の進行イメージ図





## ■活動計画推進方法の取組例

地域福祉活動の推進は、地域ごとの背景や住民の関心ごとをもとに、進め方や活動内容を検討・見直しをしながら進めていきます。活動計画で掲げた活動1～5についても、その基本的な考え方を参照しながら、地域ごとの特色ある実践が行われることとなります。

ここでは、日ごろから地域で活動する委員に、各地域での活動の進め方を伺いましたので、活動計画推進方法の一例としてご紹介します。



### 【仲間を集めよう】

- 多世代に魅力のある活動を行って興味をもってもらおう。
- お祭りや季節行事を通して出会いのきっかけをつくる。
- 色々な場に自分が顔を出してみる。

### 【集まる場をつくろう】



- 定期的集まって、意見を交換する機会をもつ。
- 楽しい雰囲気、行きたくなる場をつくる。



### 【地域のことを知ろう】

- みんなで地域のまちあるきなどをして、地域の特徴を改めて考える。
- 地域の弱みだと思っていることについて、見方を変えてみる（例：空き家が多い⇒活用方法があるかも）。

### 【地域の課題を考えよう】



- ちょっとした困りごとに耳を傾ける。
- 住民同士の話し合いの機会を持ち地域で課題に感じていることを話し合う。



### 【地域で活動してみよう】

- 何か困りごとを聞いたら、まず取り組んでみる（例：災害時、避難所でのペットの取り扱いについてマニュアルが無いと話題になった⇒避難訓練でペットの受け入れを行ってみた）。
- 取り組んでみた結果の反応から、地域の新たな課題が見えてくることもある。

### 【活動の意欲を高めよう】



- 各自の役割を決めよう。
- お互いの良かった取組を褒め合う・表彰する。
- 地域内で活動発表の場を設ける。



## 1 第5次調布市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 調布のまちにおける地域福祉活動の計画を策定するため、第5次調布市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、その結果を社会福祉法人調布市社会福祉協議会会長（以下「会長」という。）に報告するものとする。

- (1) 第5次地域福祉活動計画の策定に関する事項
- (2) 前号に掲げるもののほか、会長が必要と認める事項

(委員会の構成)

第3条 委員会は、会長が依頼する次の各号に掲げる者（以下「委員」という。）16人以内をもって構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 地域福祉活動・市民活動の実践者又は団体の職員
- (3) 関係機関・団体の職員
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) 社会福祉協議会理事及び評議員
- (6) 前号に掲げるもののほか、会長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、この計画の策定をもって終了する。

(正副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を各1人置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、会務を統括する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(招集及び会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会の議長は、委員長がこれに当たる。

(作業部会の設置)

第7条 委員長が必要と認めたときは、作業部会を設置することができる。

(関係者の出席)

第8条 委員長が必要と認めるときは、関係者の出席を求め、意見及び説明を聞くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、社会福祉協議会事務局において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるもののほか委員会の運営その他必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年12月1日から施行する。

## 2 第5次調布市地域福祉活動計画策定委員名簿

### ■委員名簿

	氏名	選出区分	部会	備考
1	室田 信一	首都大学東京 准教授		委員長
2	村上 玲子	当事者家族	市全域	
3	鈴木 賀代子	ぷくぷく・ポレポレの家 代表	小地域	
4	渋川 弘	調布市自治会連合協議会 理事	次の6年	
5	大野 祐司	すぎもり地区協議会 会長	次の6年	副委員長
6	清田 裕理	一般社団法人ソウスマイル 代表理事	市全域	
7	田中 紀雄	調布市老人クラブ連合会 副会長	小地域	
8	磯野 幸子	野ヶ谷の郷運営委員会 役員	小地域	
9	相田 英俊	国領商盛会 会長	市全域	
10	井上 一郎	民生児童委員	小地域	
11	岸本 秋美	民生児童委員	小地域	
12	花城 和美	地域包括支援センターちょうふ花園 職員	小地域	
13	肥田 しのぶ	調布市福祉総務課 係長	次の6年	平成29年 4月1日から
14	中江 成毅	調布市協働推進課 主事	小地域	
15	高橋 勝彦	社会福祉協議会 評議員	小地域	
16	金井 富美子	社会福祉協議会 理事（副会長）	市全域	
17	奥村 真由美	調布市福祉総務課 係長		平成29年 3月31日まで

■職員名簿

	氏名	役職	部会	備考
1	粕谷 静 男	事務局長		
2	飯田 真喜子	地域福祉推進課長		
3	佐土原 耕 平	地域福祉推進課長補佐兼通所介護サービス係長		平成29年4月1日から
4	田島 誠	総務課総務係長	市全域	
5	多門 晶子	地域福祉推進課地域福祉係長	市全域	
6	前田 雄太	地域福祉推進課地域福祉係地域支援担当係長	統括	
7	益子 和也	こころの健康支援課就労支援係主査	小地域	平成29年4月1日から
8	川原 泉	地域福祉推進課地域福祉係地域支援担当 主任	小地域	
9	本田 裕人	地域福祉推進課障がい者支援係主任	次の6年	平成29年4月1日から
10	葛岡 敦	ボランティア・市民活動推進課ボランティア・市民活動推進係 主任	市全域	
11	橋本 浩幸	調布市希望の家分場 主任	小地域	
12	北島 正也	地域福祉推進課地域福祉係地域支援担当 主事	次の6年	
13	奥川 茂樹	地域福祉推進課ちょうふ地域福祉権利擁護センター 主事	小地域	
14	嵐 祐子	地域福祉推進課長補佐		平成29年3月31日まで
15	廣瀬 絵里	地域福祉推進課地域福祉係 主任		平成29年3月31日まで
16	齋藤 唯	地域福祉推進課障がい者支援係 主事		平成29年3月31日まで

### 3 検討の経過

#### (1) 第5次調布市地域福祉活動計画策定委員会

開催回数	年月日	内容	出席委員
第1回	平成28年 12月19日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・地域福祉活動計画について</li> <li>・正副委員長の選出</li> <li>・今後のスケジュール</li> </ul>	16人
第2回	平成29年 1月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク「他己紹介」</li> <li>・会議のルールづくり</li> <li>・次回の委員会について</li> </ul>	14人
第3回	3月9日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク「地域にあったらいいと思うこと」</li> <li>・次回の委員会について</li> </ul>	15人
第4回	4月26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会「住民・関係機関・社会福祉協議会の協働による地域に根ざした計画づくり」 講師：(滋賀県)社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会 在宅福祉課長 眞弓洋一氏</li> <li>・次回の委員会について</li> </ul>	15人
第5回	6月22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民福祉ニーズ調査結果について</li> <li>・冊子の体裁及び内容について</li> <li>・部会の設置について</li> </ul>	14人
第6回	8月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会の報告及び検討</li> <li>・各部会に分かれての検討</li> </ul>	16人
第7回	10月11日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会の報告及び検討</li> <li>・各部会に分かれての検討</li> </ul>	15人
第8回	12月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会の報告</li> <li>・冊子(案)の検討</li> </ul>	15人
第9回	平成30年 1月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子(案)の検討</li> <li>・策定委員会の評価</li> </ul>	15人

## (2) 部会

### ■小地域部会

開催回数	年 月 日	内 容	出席委員
第1回	平成29年 7月 6日(木)	・小地域での取組内容の検討	8人
第2回	// 9月 8日(金)	・小地域での取組内容の検討	6人
第3回	// 10月16日(月)	・小地域での取組内容の検討	7人

### ■市全域部会

開催回数	年 月 日	内 容	出席委員
第1回	平成29年 7月19日(水)	・市全域での取組内容の検討	4人
第2回	// 9月20日(水)	・市全域での取組内容の検討	3人
第3回	// 10月30日(月)	・市全域での取組内容の検討	4人
第4回	// 12月19日(火)	・市全域での時組内容の検討	3人

### ■次の6年部会

開催回数	年 月 日	内 容	出席委員
第1回	平成29年 7月25日(火)	・推進体制の検討	3人
第2回	// 9月28日(木)	・推進体制の検討	3人
第3回	// 11月 9日(木)	・推進体制の検討	3人
第4回	// 12月27日(水)	・推進体制の検討	4人



## 4 委員・職員のコメント

### ■委員

- ①活動計画策定に関わって
- ②調布の好きなところ

①委員全員でこのまちの未来を妄想し、夢を描き、語り合いながら一言一句にこだわって策定しました。多くの市民の皆さんの参加を得てこの計画が推進されることを期待します。

②このまちのことを好きな市民  
(室田 信一)

①一年間！同じテーマ、ちがう目線での話し合い！これがすごかった。そして、この関わりがこれからはここで私が私のできることをやっていこうと思わせてくれました！有難うございました。

②私の居る町内  
(村上 玲子)

①「地域福祉活動計画策定委員会」何て堅い場所に来たのだろうと。回を重ねる内に、次第に社協の職員の熱意とフォローに支えられて「住みやすいまちづくり」策定に主体的に参加していました。

②神代植物周辺の散歩コース  
(鈴木 賀代子)

①手話講座を経験し、多くの福祉関係を学んだつもりでいましたが、地域福祉活動計画策定委員を経験し、多岐にわたり学びました。

②きれいな湧き水が流れている野川、大型スーパー（西友・マルエツ・業務スーパー・いなげや）  
(渋川 弘)

①全く福祉を知らない私が参加させていただき、勉強になるとともに、社協メンバーに引っ張られる日々でした。でも、関わったことで計画への思いが深まり、調布の福祉に強く興味をもちました。みんなの調布愛もすごい！

②多摩川河川敷、半分都会なところ  
(大野 祐司)

①私自身調布で育ち、一度は外へ出ましたが、やはり調布で子育てしたくて戻ってきました。調布を好きな人がずっと調布で暮らしていけるよう、みんなで語り合えたこの機会をいただけたことに感謝いたします。

②ホッとする深大寺  
(清田 裕理)

①ユニークな考えを積極的に広めようという熱意をネットワークにし、継続的に活動できる環境作りを進めましょう。

②近代化された町並み、昔ながらの農村的要素、文化を支える基盤とバランスの妙を生かしていきたいものです。

(田中 紀雄)

①調布生まれの市民として心地よく生活しています。社協がより良き市の発展に向けて、様々な活動に取り組んでいることを知り、都心にも近い歴史あるわがまち調布を一層認識しました。

②自然豊かな深大寺、雄大な多摩川  
(磯野 幸子)

①楽しく参加させていただきました。様々な活動をしている方の意見やアイデアを聞くことができ勉強になりました。「できっこない」はあまりないと感じたけれど、まちの中で身近な所から変われば良いと思います。

②恵まれた自然を残したまま発展している所

(相田 英俊)

①委員の熱意のある意見が、活発に行われ大変勉強になりました。調布の福祉の高齢化が速さをまし、障害者、あまり気づきにくい精神障害者に目が向けられ、より良い調布のまちになっていく様。

②緑と笑顔の調布、深大寺

(井上 一郎)

①委員皆で絞り出した計画案が、血や肉やエネルギーとなり動きだし、役立ってくれることを願っています。

②どこか安堵感がある調布、ステ・キ！

(岸本 秋美)

①地域について、改めて考えることができ、勉強になりました。そして委員さんと知り合えたことで地域の力を感じました。ありがとうございました。

②多摩川、野川、深大寺

(花城 和美)

①委員の皆さんの発想豊かな楽しいトーク。そしてそれを受け止め、わかりやすく図や文章化される事務局の職員の方々に拍手。とても楽しく勉強をさせていただきました。

②ショッピングが楽しい調布駅周辺

(肥田 しのぶ)

①委員会を通じて地域住民の力が何ができるかと考える中で、地域の輪の大切さを再認識しました。

②「とかいなか都会田舎」なところ。京王トリエ等が賑わう一方で、自然や活発な地域活動など田舎の良さが共存しています。

(中江 成毅)

①福祉計画を作るといってとても堅苦しいけど、結局どうしたら皆が心地よく暮せるかを考えればいいのかという事ですよね。それには誰もが互いに思い遣りの気持を持つ事が大切だと思います。

②歴史と自然溢れる深大寺

(高橋 勝彦)

①同じ思いの仲間が集い「こんな街にしたい」「こんな方々と繋がりたい」等々大いに盛り上がり、実現に向けての話が飛び交った毎回でした。皆の想いが叶うことを祈って！すべての新しい出会いに感謝です。

②緑多き、自然を満喫できるこの調布が大好きです。

(金井 富美子)

## ■職員

- ①活動計画策定に関わって
- ②調布の好きなところ

- ①調布にいつまでも住みつづけたい私もみんなも。その為に「住民だからできること」、が詰まった真の「活動計画」ができましたね。社協も一緒に行動しますよ!!
- ②都内に近いけれど田舎を残すまち

(粕谷 静男)

- ①委員のみなさんと職員がともに「調布」の魅力や将来について考え・共有し出来上がった活動計画です。
- ②自然が豊かで、散策・遊び場が沢山あります。

(飯田 真喜子)

- ①真剣に、でも楽しそうに我がまちの未来を語る委員の皆さんの姿がとても印象的でした。色々な想いが詰まったこの計画を、社協職員としていつも意識しながら行動していきます!
- ②自然、文化、利便性の調和を実感できるところ (佐土原 耕平)

- ①この委員会で生まれた様々なアイデアや意見が種となり、調布のまちで育って、芽がでて、花が咲き、実を結ぶ日がくるのを楽しみにしています。
- ②味の素スタジアムの歓声

(田島 誠)

- ①限りない妄想で始まり、ことば選びに悩みながら、委員のみなさんと調布の未来を描きました。委員のみなさんの思いが詰まっています。是非、手に取っていただきたい一冊です。
- ②散歩が気持ち良い野川

(多門 晶子)

- ①立場も価値観も違う委員のみなさんが、何度も意見を重ね、この計画が完成しました。その根底には「調布が好き」という共通の思いがあったと感じています。調布愛がさらに高まりました。
- ②行くと心が安らぐ深大寺周辺

(前田 雄太)

- ①委員さんたちとの話し合う雰囲気を楽しいものとして、委員のみなさんの「生きた言葉」を引き出し、職員では思いつかないような計画を作りたいと考えました。
- ②これからも発展しそうな街

(益子 和也)

- ①笑いあり、生みの苦しみありの部会、委員会でした。これからは委員のみなさんや住民の方と一緒に基本目標に掲げた住みつづけたい調布を目指していければと思います。
- ②癒しの緑が多い深大寺地域

(川原 泉)

- ①委員の皆さんが日々の実践から紡いだ言葉が積みあがって計画が完成しました。熟議を重ねた内容が市内各地でどのように形になっていくか、いまから楽しみです！！
- ②都会と自然のちょうどよいバランス

(本田 裕人)

- ①終わってみれば、委員会・部会の計画策定プロセスは、地域福祉活動そのものが既にスタートしていたのだと感じます。計画の想像を超えた活動が生まれることを期待します。
- ②知らない素敵な活動がたくさんあるところ

(葛岡 敦)

- ①妄想から始まり、具体的な取組をどうしていくかという話し合いに至るまで、委員のみなさんの調布愛を知ることが出来た委員会でした。  
出来るところから一歩ずつ！
- ②深大寺の街並み

(橋本 浩幸)

- ①地域で活動する大先輩である委員のみなさんと知り合えた事が、嬉しかったです。故に緊張する事もありましたが、貴重な地域活動における経験談を沢山プレゼントしていただきました。
- ②スタジアム通りの桜並木、野川の亀

(北島 正也)

- ①活動計画策定に関わり、何かを始めることで人とつながっていくのだなあ、ということを実感しました。この計画を通し、誰かが何かを始め、つながっていくきっかけになれば幸いです。
- ②文化的なところ

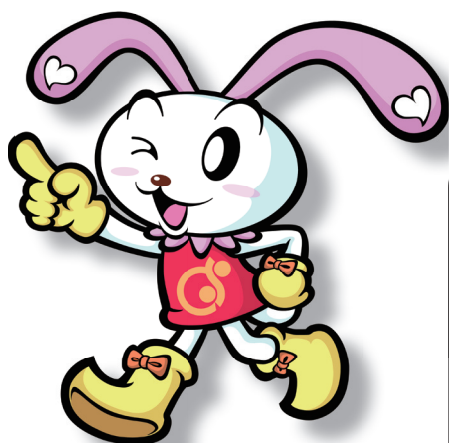
(奥川 茂樹)

ここがいい

ここであいい

わがまち 調布

これからも



調布市社会福祉協議会  
キャラクター  
「ちょビット」

第5次調布市地域福祉活動計画

発行年月 平成30年3月

発行 社会福祉法人調布市社会福祉協議会  
〒182-0026

東京都調布市小島町2-47-1

(調布市総合福祉センター内)

TEL 042-481-7693

FAX 042-481-5115

E-mail chofu-shakyo@ccsw.or.jp

U R L <http://www.ccsw.or.jp/>